

パーマネント
コース紹介

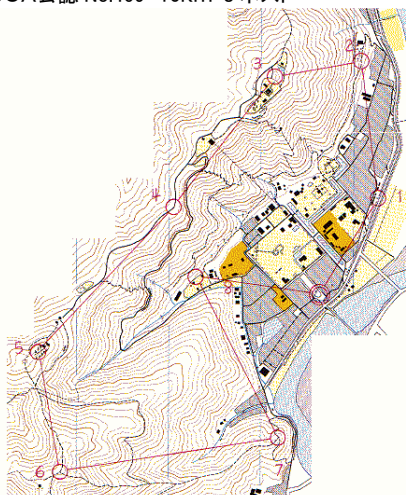
物見遊山！紅葉に大満足

大高竜亮

岩国城山コース 山口県岩国市

「また連れて行って。」 オリエンテーリング初心者をも、とりこにするコース。

「岩国城山」コース 山口県 No.12
JOA公認 No.469 10km 8 ポスト



岩国名物の錦帯橋。観光とオリエンテーリングと楽しめるお勧めコース。

パーマネントコースの模範生

今回紹介する「岩国城山」コースはパーマネントコースの模範生。「いつでも、だれでも」オリエンテーリングを楽しめることを目的に考案された40年前の思いを今も受け継いでいる貴重な存在です。

コースのある岩国市は山口県の最東端。2006年3月の大合併で近隣玖珂郡の7町村を吸収して県内最大の面積を有するエリアになっています。広島中心部からも近く、在来線の山陽本線のどんこう普通列車でも約50分、新幹線だと新岩国駅までは20分足らずで到着します。

すでにこのコース、10年余り前の平成10年4月に訪れ、その模様をホームページにも掲載していますので、目にした方もいらっしゃるでしょうか。

久々の再訪の目的は、この原稿の締め切りに追われて近場のコースを…、ということもありますが、メインは仕事関係で知り合った地元山口県周南市在住の知人に、オリエンテーリングなるものを体験してもらおうということ。それならば、メンテナンスが行き届き、好印象を抱いてくれそうなコースがいいだろうと選んでみた次第です。

アクセス良好・メンテ良好

自宅から広電の8号線に乗り、ゴトゴトと終点の山陽本線横川駅にやってきます。JRに乗り換え、快速シティライナーで途中駅をいくつか飛び越し、40分ほどで岩国駅に。駅前から知人の車に拾ってもらい、錦帯橋近くの吉香（きっこう）公園に向かいます。岩国駅から錦帯橋へのバスは頻発していますので、車でなくてもアクセスはかんたんです。

錦川の河原にある駐車場に車を置き、スタート地点に到着。公園に設置されている案内板は10年前と同じ輝きを放っていて、思わず嬉しくなります。案内表記はきれいにシールで貼りかえられ、管理の良さはお墨付き。頭上には真っ赤に色づいた紅葉が彩りを添えていました。

以前からのマップ販売所である「伊藤酒店」がなぜか見当たらなかったものの、岩国城と吉香公園を結ぶ岩国城ロープウェイの山麓駅で地図の扱いがある旨、マスターマップと一緒に案内板に掲示されています。

地図は1991年調査のものが今も現役。以前余分に買っていた地図をそのまま使うことができたため、山麓駅には寄らずにスタートすることにしました。

オリエンテーリングは楽しい

いつもなら軽快に大股にガシガシと歩き始めるところですが、今回は解説しながらゆっくりゆっくり進んでいきます。土手の上に続く道を歩きつつ、右手に橋へ通じる道が伸びる分岐で立ち止まってスタート地点からの距離と地図上の距離を比較してもらったり、二重線、実線、破線の表記と実際の道を見比べてもらったりと、最初から先生役に徹します。そして最初のポストのある忠魂碑に到着。裏側に回ってポストを見つけると「立派！」とひとこと知人から声があがったのは、「子どもの頃のレクリエーションで見たポストがもっと小さかった印象だったから」とのこと。そうなんです。このタイプのポストこそパーマネントコースファンを作ってきたと言っても過言ではないでしょう。

桜のシーズンは格別だろうな、と思える冬枯れした並木道を第2ポストに向けて歩き始めます。土手を下ると山歩きの身なりには不似合いな住宅地。T字路を経由して分岐に到着します。ここで、ポストに通じる上り坂を「こっちでしょ」と瞬時に判別され、早くも先生はお役御免かと思われましたがそんなことはありません。この先、まだまだ登場する機会は残されています。

万徳院の先に続く、うぐいすの道に入るとすぐに第2ポストが姿を現します。以前は旧型の金属製のポストが残されていましたが、今は全てFRP製のものに更新されています。

紅葉狩り

第3ポストは一気に上りとなり、城山山上の岩国城を目指すのみ。とはいえこの区間の半分は等高線に沿ったなだらかな道を暢気に行進していきます。うぐいすの道から分岐を経てひぐらしの道に進みます。このあたりの紅葉も見惚れてしまうほどの色づき。

最短路の小径は道連れがいる今回は敢えてチャレンジせずに、その先の小道を選択します。これまでの穏やかに歩ける道から一転、「山登り」らしいルートに変わり、先生役の再登場となります。初心者には「道」というものの基準がオリエンティアよりも厳しい基準を持っています。オリエンティアはちょっとした踏み跡程度でも「立派な道」なんてついつい言ってしまいがち。この感覚に初心者は驚くようです。それでもちゃんと尾根に到達してみると、多少なりとも納得した様子。山中に設置された真っ赤な灰皿を横目に眺め、さらに踏ん張って坂を極めます。

九十九折の区間を乗り切ると、石垣が見えてきます。と同時に観光客の気配もちらほら…。ロープウェイが通じていけば仕方ないことですが、山城はやはり自分の足で制覇する掟でも作ってもらいたいもの。「おいおいヒールかよ」なんて心の中で突っ込んでみたりもします。ほどなく天守閣が姿を現し、ポスト到達を目前に小休止をとることにしました。ずっしりとカスタードのつまったクリームパンで一息入れます。

この天守閣、昭和37年に復元されたというもの。しかも、麓からの見栄えを優先して、従来の天守閣の位置から30mも移動させたというから、観光目的の一色です。入場料260円を支払って中に入ると、そこは武具甲冑や刀剣が展示された博物館。階段を上り詰めた最上階にはコイン式の望遠鏡まで設置されていて、当時のお殿様である岩国領当主吉川広家は今の復元天主をどんな思いで見ていることでしょうか（望遠鏡はしっかり100円払って覗いてみたりしましたが…）。この復元天主は建築されてからすでに40年余りが経過しましたが、初代の天守閣は建築に8年かけながら、一国一城令によりわずか7年で取り壊されるという悲運の歴史を持っています。



岩国城天守閣

第3ポストも無事確認して、お城を後にします。ロープウェイ山頂駅や野外ステージのあるイベント広場を過ぎると、観光客の姿はぱったり途絶え、その静けさに癒されることでしょう。第4ポストは何の変哲もない道端に置かれています。

尾根筋のなだらかな道を楽しみ、NHKの中継所を過ぎると鳥居が現れ山道へと変わります。この先にあるのが、石垣に使用した石灰岩を切り出した跡地で「護国館」と今は呼ばれているところ。小さな社が置かれていて、天狗堂が築かれていたという200年余り前に思いを馳せることができます。ポストはそこから上方を見上げると確認することができるでしょう。

ここから第7ポストまではパーマネントコース気分が一気に盛り上がる、森閑とした山道が続きます。土崖の間を抜けてピークを超え、鞍部まで下ると、このコース最後の上りが待ち構えています。岩国城へののぼりと比べると幾分緩やかで、少しずつ乳酸の溜まってきた体には優しさを感じさせます。テレビ塔の手前にある分岐に第6ポストがあり、そこは果てしなく広がる町と川と海の風景が心行くまで楽しめる場所です。

たっぷり新鮮な空気を体に入れ、長い長い下り坂へと踏み出していきます。いつの間にこんなに上ってきたんだろうと思えるほど、いつ終わるとも知れない坂道が続きます。下り坂に慣れない道連れを気に掛けながら、時に慎重に、時にスキップを踏むほど軽快に下り、小さなピークを1つ超えると第7ポストに到達します。大きな深呼吸をしたくなるほど安堵の瞬間です。

残りの山道を蛇行しながら下りきると、錦川沿いの舗装道路に抜け出し、山林区間は終了となります。山に沿っ

て北に向かう道はただひたすらのんびりムード。突き当りを西に向かい、洞泉寺横から広場に入ります。最後のポストは真っ赤な紅葉の広がる山裾にたずんでいました。撮影スポットにもなっているようで、立派なカメラを構えた人たちがあちこちに見受けられます。秋の風情を堪能して、吉香公園に帰り着きました。



スタート・フィニッシュの吉香公園

このあと、お城で食べたパンだけではさすがに腹が減り、同じ岩国の玖珂にある「いろいろ山賊」という地元では名の知れた料理屋へ向かいます。「山賊焼」という若鶏の炭火焼を、屋外に置かれたこたつに足を入れながら豪快に喰らうという趣向の店。ちょっと不思議な体験をし、家路へと就きました。

満足度の高いコースと景観と味に触れることのできる「岩国城山」パーマネントコース。もう行くしかありません。

今回初体験だった知人からも「また連れて行って」と、ありがたいお言葉も頂戴しています。

(2008年11月30日 踏破)

(大高竜亮)



紅葉を歩いて舌鼓。言うことなし。